

令和 5 年 5 月 16 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K05707

研究課題名（和文）重要文化的景観選定を通じた小集落のエリアマネジメント推進に関する研究

研究課題名（英文）Study on promoting area management of small villages through the process of designating of important cultural landscape

研究代表者

松本 邦彦（Matsumoto, Kunihiko）

大阪大学・大学院工学研究科・助教

研究者番号：30721253

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、文化財保護法に基づく重要文化的景観選定後の地域の自律的まちづくりの推進実現を目標に、選定地区で実施される様々な活動が、保全の範疇を越えて広く地域のまちづくり推進に与えた影響を明らかにした。主な研究成果としては、「近江八幡の水郷」に分布するヨシ原を対象に、管理の現状および伝統産業従事者等の将来意向を調査し、保全に要する労働力と費用を明らかにした研究等のほか、棚田景観を有する選定区域での規制実態や景観配慮のチベーションが高まりにくい構造の解明、文化庁ほかの補助事業導入の現状とその制度的課題を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、文化財保護法に基づく文化財でありながらも、その保護の対象は実際に生活や産業が展開される地域であるという文化的景観保護制度に対して、文化財選定がゴールではなく、景観や自然環境の保全と地域の活性化・まちづくりがどのように両立されているのか、その課題は何であるのかを示すことができた。学術的にも、景観保全に必要なスキルと労働量について、個人単位ではなく地域全体での最適化を図る一元管理の効果検証や、修景整備や保全と産業継続のトレードオフの考え方など、新たな知見を提供することができた。

研究成果の概要（英文）：The goal of this study was to realize the promotion of autonomous community development after the selection of Important Cultural Landscapes based on the Law for the Protection of Cultural Properties. To achieve this goal, we clarified the impact of various activities implemented in the designated areas on the promotion of community development beyond the scope of conservation.

Some of the main research findings are as follows. I clarified the manpower and expenses required for the conservation of reed fields in Omi Hachiman based on the status of maintenance and the results of future intentions of traditional industry workers, etc. I also clarified the status of the management of the reed fields in Omi Hachiman City. I clarified the actual conditions of regulations in designated areas with terraced rice field landscapes and the mechanisms that make it difficult to motivate people to consider landscapes.

研究分野：都市計画

キーワード：文化的景観 重要文化的景観 エリアマネジメント 担い手 財源 文化財 維持管理 ガイドツアー

1. 研究開始当初の背景

2004年公布、2005年施行の改正文化財保護法により、文化財の一類型として加えられた文化的景観であるが、重要文化的景観に選定されたとしても、地域およびそこで展開される生活・生業の持続が危うければその価値を継承することはできない。そこで本研究では、選定という瞬間的断面ではなく、それに付随する重要文化的景観の選定に向けて地域で実施される取り組みや、選定後の景観構成要素の修景整備などの事業実施を通じて、景観および地域のマネジメント体制が構築されると仮定した。国土交通省が示すエリアマネジメントの手順に照らすと、重要文化的景観の選定前後のプロセスは、エリアマネジメントの各段階で必要とされる取り組みを既に内包しているとも考えることができ(表1)既選定地区での各種取り組みを評価することで、文化財選定前後のプロセスが地域における自律的活動の萌芽と進展に与えた影響を把握できると考えた。

表1 エリアマネジメントの手順(国土交通省資料)と選定プロセスの関係

段階	エリアマネジメントの手順	重要文化的景観の場合
契機	1)地域課題やニーズの認識・把握	各種調査の実施
	2)発起人からの課題投げかけ	WS・説明会の実施
意識の共有	1)準備会的な協議の場で議論	WS・説明会での議論
	2)目標や活動方針検討	保存活用の方針策定
	3)地域の意識と目標の共有	選定申出の同意確認
活動と仕組みづくり	1)具体的な活動内容の検討	整備活用の方針策定
	2)活動実施に向けた条件整理	保存活用の体制検討
	3)組織設立に向けた検討	活動計画の策定
	4)組織の設立及び活動の実施	選定後の事業実施
展開	1)活動の発展	エリアマネジメントへ展開?

国土交通省土地・水資源局(2008):エリアマネジメント推進マニュアル(平成20年3月)

2. 研究の目的

上記背景に基づき、本研究は重要文化的景観の選定に向けて地域で実施される地域の自然的・社会的環境の網羅的把握、意識共有、保全計画策定とそれに向けた体制の構築、さらに選定後の普及啓発や修景整備などの取り組みを、魅力向上、運営体制、財源確保といったエリアマネジメントの観点から評価し、選定に関連する各種プロセスが地域の自律的なまちづくりや活性化推進に与える影響とその構造を把握することを目的とした。

3. 研究の方法

研究期間においては具体的に「(1)課題共有・体制構築」「(2)エリアの魅力向上」「(3)財源確保」に関する研究を推進した。

「(1)課題共有・体制構築」に関しては、国内で初めて重要文化的景観に選定された「近江八幡の水郷」に分布するヨシ原を対象に、伝統産業(ヨシ産業)従事者・組合への聞き取りで明らかにした管理の現状、将来意向調査の結果をもとに、管理放棄されるヨシ原を保全するために要する労働力と費用を算出した。さらに産業従事者以外による維持管理への関与の可能性を明らかにするため、CSR活動として維持管理に参加する企業等の作業実績・能力を把握した。その結果をもとに、地域内の労働力を集約できると仮定した場合に、保全活動に必要なスキルと労働量に応じて配分し、全体としての最適化を図る一元管理手法の導入効果シミュレーションを実施した。また重要文化的景観選定区域で実施されるガイドツアーを対象に、普及啓発や収益化を担う組織の体制やその活動や課題の実態を明らかにするために、ガイドツアーを実施する全国71組織の調査を実施し、ツアー運営・ガイド従事者や住民の価値認識や行動変容への影響を分析した。

「(2)エリアの魅力向上」に関しては、上記(1)の「近江八幡の水郷」でも観光機能を活かしたヨシ原の整備を検討したほか、棚田景観を有する20の重要文化的景観選定区域を対象に、保全措置・行為規制の導入状況を明らかにするとともに、景観配慮型の棚田整備の工法が採用されにくい要因を分析した。さらに、棚田整備に関係する現状変更行為の届出状況、保全と営農継続との両者をバランスよく維持するために協議の実態を明らかにするために自治体担当部署に対する調査を実施した。

「(3)財源確保」に関しては、上記(2)における文化庁ほかの補助事業活用の実態把握や、上記(1)におけるガイドツアー収入の実態の分析のほか、選定区域で実施された文化的景観の保全や活用を目的とするクラウドファンディングプロジェクト6件を対象に調査を行い、その内容や資金調達状況を明らかにした。

4. 研究成果

(1)課題共有・体制構築

重要文化的景観「近江八幡の水郷」の選定区域に分布するヨシ原を対象に、区域内でヨシ原を

所有・利用する伝統産業（ヨシ産業）従事者・組合への聞き取り調査を主体別実施し、その結果をもとに現在の維持管理の状況を明らかにした。さらに、各主体の将来の産業継承の意向およびヨシ原の維持管理意向を尋ね、その結果をもとに選定区域において将来適切に維持管理がなされなくなるヨシ原の総面積およびその位置を特定した（図1）。分析結果からは、ヨシ産業に利用されるヨシ原は収穫を目的に高水準で維持管理が実施され、文化的景観の本質的価値の形成に寄与している一方で、個人所有のヨシ原の多くが、後継者不在のため維持管理の継続が困難になること、特に景観計画においても重要な位置づけがなされるエリアである円山町周辺一帯での管理放棄の進行が懸念されることが明らかになった。そして管理放棄が見込まれるヨシ原の継承のために要する労働力と費用を算出し、保全に要するコストを明らかにした。
 （近江八幡の水郷地帯に分布するヨシ原の維持管理に要する労働力と費用、小池のどか・松本邦彦・澤木昌典、ランドスケープ研究 83(5) 563-568 2020年）

	維持管理あり		維持管理なし		未確認
	面積	変化量	面積	変化量	
2018年	78.2	-	29.8	-	4.1
2028年	61.8	-16.4	42.0	+12.2	8.3

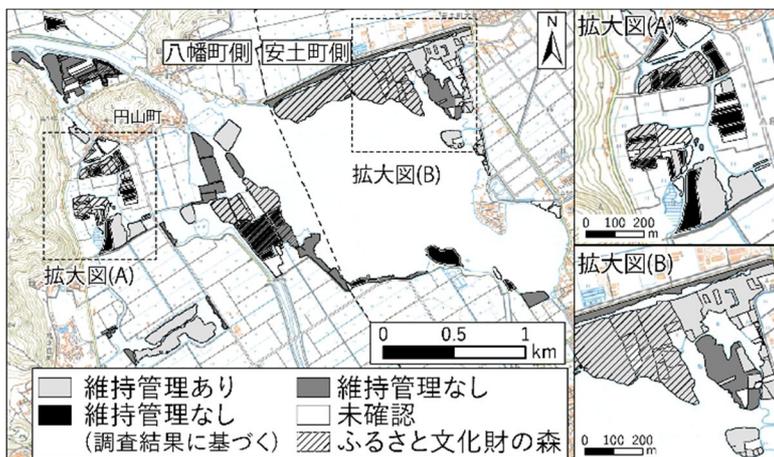


図1：ヨシ原の所有者等への将来意向調査にもとづく2028年のヨシ原の維持管理状況の予測

次いで、同じく重要文化的景観「近江八幡の水郷」を対象に、産業従事者以外による維持管理への関与の可能性を明らかにした。ヨシ原の維持管理作業のボランティア人員派遣をCSR活動として実施する企業や組織を特定し、各主体に対しての聞き取り調査の結果から、作業の実績・人員量・技術・能力（効率）等を明らかにした。その結果をもとに、現状の所有および利用の権利の違いを越えた一元管理の可能性について、仮に選定区域内の労働力を集約し、産業継承や保全活動に必要なスキルと労働量に応じて配分した場合に、全体としての最適化を図ることができるのか、その効果を検証した。労働力が限られる中でも一元管理を行うことで、ヨシ原の多面的機能の増進に寄与する労働力の効率的な配分が可能であること、産業利用を前提としてヨシ原保全を推進することが結局は多面的機能の確保の点においても有効であることが示唆され、地域産業と密接に関わり形成された文化的景観を保全するうえでの本質に通じることが分析により明らかになった（図2）。

（近江八幡の水郷地帯に分布するヨシ原の維持管理主体の一元管理の有効性、小池のどか・松本邦彦・澤木昌典、都市計画論文集 56(3) 1053-1060 2021年）

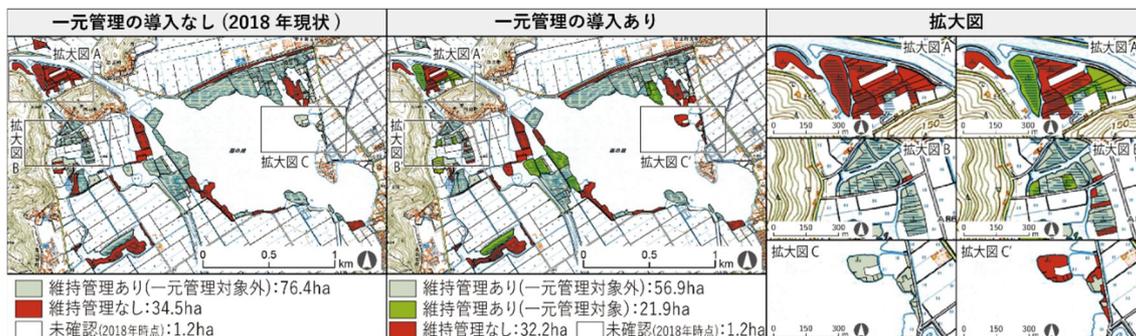


図2 一元管理の実施有無別にみるヨシ原の維持管理状況の比較

また重要文化的景観選定区域で実施されるガイドツアーを対象に、普及啓発や収益化を担う組織の体制やその活動や課題の実態を明らかにするために、ガイドツアーを実施する全国71組織の調査を実施し、ツアー運営・ガイド従事者や住民の価値認識や行動変容への影響を分析した

(表2)。文化的景観の価値を形成する地域の生活や生業の維持・活性化への貢献を認識する組織は僅かであること、近隣住民の保全に対する行動変容を生み出す効果は確認されたが、収益の保全活用への還元ができていない組織は12.7%と一部に限定され、また十分な金額とは言い難いことを明らかにした。一方で、来訪者への見学可能範囲や見学マナー等の説明による、生活・生業空間への立ち入りなどの悪影響の低減が一部で確認できた。

(重要文化的景観選定区域で実施されるガイドツアーの特徴と景観保全活動への影響、松本邦彦・平野章吾・澤木昌典、ランドスケープ研究 84(5) 633-638 2021年)

表2 重要文化的景観選定区域でのガイドツアー実施組織(活動目的および組織形態別)

目的別 類型	地縁組織 (N=2)	任意組織/協議会・連絡会(N=44)				NPO法人 (N=6)	営利企業 (N=5)
		GT実施組織(N=20)	GT統括団体(N=16)	まちづくり組織 (N=8)			
まち づくり型 (N=31)	笹川の景観を守る会(佐渡市) ・段々畑ガイドの会(西予市)	・ながい黒獅子の里案内人(長井市) ・佐渡相川ふれあいガイド ・楽知会(千曲市) ・飯山ふるさと案内人 ・岐阜市まちなか案内人の会 ・四万十あちこちたんね隊(四万十町) ・ゆすはらであいの会(栲原町) ・松原まろつと会(栲原町) ・天草宝島案内人の会(天草市) ・豊前市史跡ガイドボランティアの会	・金沢観光ボランティアガイドの会 ・高島町観光ボランティア協会(高島市) ・宮津市エコリズム推進協議会 ・智頭町観光ガイド ・出雲國たたらガイドの会(奥出雲町) ・外海観光ボランティアガイド協会(長崎市) ・三角西港観光ガイド(宇城市)	・骨寺村ガイドダンス運営協議会(一関市) ・大溝の水辺景観まちづくり協議会(高島市) ・湖辺の郷伊庭景観保存会(東近江市) ・生野まちづくり工房井筒屋運営委員会(朝来市) ・虎太郎社中(津野町)	・おぢかアイランドツアーリズム(小値賀町) ・黒島観光協会(佐世保市) ・アクロス五島(五島市) ・長崎の風(長崎市)	・(株)ノーザンクロス平取事務所(平取町) ・(株)まっせ(近江八幡市) ・(株)地域創生(有田川町)	
魅力 発信型 (N=18)	-	・大江町観光ボランティアガイドの会 ・おんさい案内人(岐阜市) ・京都観光再発見懇話会(京都市) ・てっぺん四万十風の会(津野町) ・久礼のまち歩きガイド(中土佐町) ・上五島ふるさとガイドの会(新上五島町)	・近江八幡観光ボランティアガイド協会[近江八幡] ・生月町ボランティアガイド協会(平戸市) ・泉佐野観光ボランティアガイド協会 ・飛鳥観光協会(明日香村) ・長崎さるくガイド(長崎市) ・日田市観光協会[日田]	佐渡金銀山古道を守る会 ・四万十黒尊むら(四万十市)	・段畑を守る会(宇和島市) ・平戸観光ウエルカムガイド	・北野界わい創生会(京都市) ・(株)カミカツリスト(上勝町)	
活性化 非指向型 (N=6)	-	・いわいの里ガイドの会(一関市) ・城と庭のボランティアガイドの会(金沢市) ・宇治観光ボランティアガイドクラブ	・遠野市観光協会 ・金沢ゲッドゥルガイドネットワーク ・米原観光ボランティアガイド協会	-	-	-	
目的不明 (N=2,回答無し)	-	・京都政策愛好会(京都市)	-	針江生水の郷委員会(高島市)	-	-	

凡例 「」:重要文化的景観保存計画に保存体制を担う組織として記載あり

「(丸括弧)」:所在市町村 ただし組織名から判断できる場合は省略

組織の構成員の特徴、法人格の有無、活動目的・内容等の違いから組織をタイプ別に区分している。

(2)エリアの魅力向上

エリアの魅力向上では、上記(1)の「近江八幡の水郷」でも観光機能を活かしたヨシ原の整備を検討したほか、重要文化的景観選定区域のうち棚田景観を有する20選定区域を対象に行政担当部署への調査を行った。一部の選定区域では保全措置・行為規制の導入が不十分であり、将来的な景観不調和の発生が懸念されること、さらに景観に配慮した整備の採用にあたっては仕様が異なることから整備費総額が高騰し、それにより採用のモチベーションが高まりにくい構造にあることも明らかにした。具体的には、文化庁の補助を活用するにあたっては前年度までに事業計画を文化庁に申請する必要があるが、被災時の復旧に際しては予め被害内容や金額を想定できないのはもちろんのこと、当該年度の耕作継続のための速やかな復旧が最優先となるため、活用が困難であることを明らかにした(表3)

(重要文化的景観選定区域における棚田景観を構成する農地の保全および整備、松本邦彦・坂井亮文・澤木昌典、日本造園学会ランドスケープ研究 82(5) 617-622 2019年)

さらに、棚田整備に関係する現状変更行為の届出について、その箇所や変更内容を把握するとともに、保全と営農継続との両者をバランスよく維持するために協議の場でどのような議論がなされているのかを明らかにした(2023年度以降に公表予定)

表3 文景補助を活用した農地等の整備実施状況(左:維持・管理、右:災害復旧)

種別	自治体	事業年度	対象箇所	整備内容	文景補助活用理由	種別	自治体	事業年度	対象箇所	整備内容	文景補助活用理由
維持・管理	日田市	2012~2016	棚田38圃区	せまち直し、石積みの補修改修	他制度では補助要件に該当しない整備工法であったため	災害復旧	豊後高田市	2014	棚田法面	法面石積みの補修	他制度より補助率が高かったため、収穫後の崩壊で緊急性が低く次年度工事での復旧でも問題なかったため
	豊後高田市	2011~2016	水路農道	農道・水路の復旧	他制度では補助要件に該当しない整備工法であったため、農水省廃止事業(田園空間整備事業)での景観配慮整備実施箇所の維持管理のため		上勝町	2013, 2015*	棚田法面	法面石積みの補修	他制度より補助率が高かったため
	豊前市	2015~2017	水路	水漏れの防止	経年劣化によるもので緊急性は低く次年度実施で問題無かったため						

(3)財源確保

上記(2)における文化庁ほかの補助事業活動の実態や、上記(1)におけるガイドツアー収入の実態の分析のほか、重要文化的景観選定区域で実施された文化的景観の保全や活用を目的とするクラウドファンディングプロジェクト（CFPJ）の実態に関する調査を行った。CFPJ は全国の重要文化的景観選定区域のうち、18 区域で 13 件の実施を確認できた（複数区域で実施されているものを含む）。景観構成要素の修景・修繕目的のCFPJ が実施されているが、寄付金の達成率は特産品開発に比べて低い状況を明らかにした。一方でヒアリング調査を実施した 6 団体中 2 団体においては事業の情報発信のために CF を活用しているなど、資金獲得手段以外の機能も期待されていることを確認できた（表 4）

（重要文化的景観選定区域で実施されるクラウドファンディングの特徴、赤坂尚哉・松本邦彦・澤木昌典、日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集 19 45-48 2021 年）

表 4 ヒアリング調査対象（重要文化的景観選定区域でCFPJを実施）団体とCFPJの概要

CFPJ の分類	地域創生	KTN	飯山市	猿捨	ほろ酔いC	甲津原
	a.景観構成要素の修景・修繕目的				b.地元住民による特産品の加工販売	
所在 (対象事業地)	和歌山県有田川町	長崎県長崎市	長野県飯山市	長野県千曲市	大阪府大阪市 (大阪府泉佐野市)	滋賀県米原市
掲載した CF プラット フォーム	(株)CAMPFIRE 「CAMPFIRE」	(株)マクアケ 「Makuake」	(株)トラストバンク 「ふるさとチョイス ガバメントクラウド ファンディング」	(株)CAMPFIRE 「CAMPFIRE」	(株)マクアケ 「Makuake」	(株)CAMPFIRE 「CAMPFIRE」
対象事業地の 主な景観	棚田景観	街路景観 居住景観	里山景観 居住景観	棚田景観	棚田景観	水辺景観 居住景観
CFPJ 実施期 間	2018/6/12-7/29	-2019/9/27	2018/12/18- 2019/2/28	2019/5/31-7/24	2020/6/20-10/9	2017/10/12-12/11
CF 活用目的	事業の PR、 地域内の文化財の 認識の向上	拠出金額の低減	事業の PR、 地域外からの支援 獲得	計画になかった追 加工事の発生に伴 う事業資金の獲得	酒米の 買取費用の確保	特産品の販路拡大 のための統一パッ ッケージデザイン制作
寄付金の予定 使途	古民家の修繕	文化財維持管理の ための基金に寄付	神社護摩堂の修繕	グッズ製作、農業 体験交流拠点の整 備、農機具・倉庫 購入	日本酒醸造	漬物の加工・販売
主な返礼品	古民家での宿泊券	クリアファイル、 御朱印帳	ふるさと納税返礼 品	棚田米、農業体験	日本酒、野菜	漬物
寄付人数	4 人	9 人	15 人	8 人	117 人	42 人
寄付金額/ 目標金額	¥35,000 / ¥1,000,000	¥130,000 / ¥3,000,000	¥332,000 / ¥3,000,000	¥115,000 / ¥5,000,000	¥655,900 / ¥500,000	¥258,000 / ¥200,000
平均寄付金額	¥8,750	¥14,444	¥22,133	¥14,375	¥5,691	¥6,193
達成率	3.5%	4.3%	11.1%	2.3%	131.2%	129.0%
予定事業の実 施	予定通り実施	予定通り実施	予定通り実施	予定通り実施(オリジ ナルグッズの作成) 一部実施(拠点整備お よび農機具購入) 実施無し(倉庫購入)	予定通り実施	予定通り実施
事業費の追加 拠出	実施なし	実施なし	実施なし	個人からの借入れ	目標金額達成	目標金額達成
事業費の追加 拠出をしなかつ た理由	事業費を他の補助 金で確保したため	団体が負担する拠 出金額の削減が目 的であったため	事業費を他の補助 金で確保していた ため	-	-	-

(4)得られた成果の国内外における位置づけとインパクト・今後の展望

文化的景観はユネスコ世界文化遺産の一類型として導入されたものでもあり、その保護と地域活性化の両立は世界的な課題であり、得られた知見の多くは国外でも有用なものである。特に自然的・社会的環境に共通性を有する東南・東アジアでの知見の活用は学術的・政策的にも有用なものと考えられる。国内においても、文化財保護・都市計画・環境・産業などの多分野に跨がる分野でありながらも、それらを横断する研究展開はこれまで十分とは言いがたく、「近江八幡の水郷」に関する研究が日本造園学会全国大会にてベストペーパー賞を受賞したほか、現地で開催した成果報告会が新聞報道されるほか、朝日新聞のWEBコンテンツで研究が紹介されるなど、研究成果の反響は大きいものとなった。

今後の展望としては、表 1 に示すエリアマネジメントの手順のうち、「意識の共有」に関する重要文化的景観選定を目指す地域で、選定申出を契機に実施された議論や保存・活用の計画策定などの取り組みが選定後の活動や体制構築に与えた影響の分析に関する研究、「活動と仕組みづくり」に関して財源確保の課題解決に向けた研究の展開を図ることで、今回得られた成果とあわせてエリアマネジメントの推進により寄与できる知見になると考えられる。

< 引用文献 >

ヨシ原の利活用フォーラムに 50 人. 読売新聞（滋賀県版）2019 年 2 月
朝日新聞デジタル「円山・白王 滋賀県 | 湖とともに生きる | SATO～次世代に残したい里～」
<https://www.asahi.com/ads/sato-perpetual-planet/maruyama-shiraou/>
（最終閲覧:2023 年 5 月 16 日）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 小池 のどか, 松本 邦彦, 澤木 昌典	4. 巻 56
2. 論文標題 近江八幡の水郷地帯に分布するヨシ原の維持管理主体の一元管理の有効性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1053-1060
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.56.1053	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 赤坂尚哉, 松本邦彦, 澤木昌典	4. 巻 19
2. 論文標題 重要文化的景観選定区域で実施されるクラウドファンディングの特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/cpijkansai.19.0_45	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 小池 のどか, 松本 邦彦, 澤木 昌典	4. 巻 83
2. 論文標題 近江八幡の水郷地帯に分布するヨシ原の維持管理に要する労働力と費用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本造園学会ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 563-568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5632/jila.83.563	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 松本邦彦, 平野章吾, 澤木昌典	4. 巻 84
2. 論文標題 重要文化的景観選定区域で実施されるガイドツアーの特徴と景観保全活動への影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本造園学会ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 633-638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5632/jila.84.633	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本邦彦, 坂井亮文, 澤木昌典	4. 巻 Vol. 82, No. 5
2. 論文標題 重要文化的景観選定区域における棚田景観を構成する農地の保全および整備	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本造園学会ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 617-622
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5632/jila.82.617	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本邦彦, 小池のどか, 澤木昌典	4. 巻 59
2. 論文標題 地域産業の変化に応じた文化的景観の保全に関する研究 その1: 地域産業の変化とヨシ原の維持管理との関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 313-316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池のどか, 松本邦彦, 澤木昌典	4. 巻 59
2. 論文標題 地域産業の変化に応じた文化的景観の保全に関する研究 その2: 管理放棄された景観構成要素の管理担い手としての地域外人材導入可能性の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 317-320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 松本 邦彦, 平野 章吾, 澤木 昌典
2. 発表標題 重要文化的景観選定区域で実施されるガイドツアーの特徴と景観保全活動への影響
3. 学会等名 日本造園学会2021年度全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤坂尚哉, 松本邦彦, 澤木昌典
2. 発表標題 重要文化的景観選定区域で実施されるクラウドファンディングの特徴
3. 学会等名 日本都市計画学会関西支部研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小池 のどか, 松本 邦彦, 澤木 昌典
2. 発表標題 近江八幡の水郷地帯に分布するヨシ原の維持管理に要する労働力と費用
3. 学会等名 日本造園学会2020年度全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本邦彦, 坂井亮文, 澤木昌典
2. 発表標題 重要文化的景観選定区域における棚田景観を構成する農地の保全および整備
3. 学会等名 日本造園学会2019年度全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本邦彦, 小池のどか, 澤木昌典
2. 発表標題 地域産業の変化に応じた文化的景観の保全に関する研究 その1: 地域産業の変化とヨシ原の維持管理との関係
3. 学会等名 2019年度日本建築学会 近畿支部研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小池のどか, 松本邦彦, 澤木昌典
2. 発表標題 地域産業の変化に応じた文化的景観の保全に関する研究 その2：管理放棄された景観構成要素の管理担い手としての地域外人材導入可能性の検討
3. 学会等名 2019年度日本建築学会 近畿支部研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小池 のどか, 松本 邦彦, 澤木 昌典
2. 発表標題 近江八幡の水郷地帯に分布するヨシ原の維持管理主体の一元管理の有効性
3. 学会等名 日本都市計画学会第56回論文発表会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関